

令和元年度 鳥栖市立鳥栖中学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと鳥栖に誇りをもち「学び合い、支え合い、高め合う生徒の育成」	①学力向上 ②いじめ未然防止 いじめ見逃し0 ③自己肯定感を高める生徒指導体制・相談体制 ④保護者・地域に信頼される学校 ⑤職員の仕事規律の保持及び健康管理、交通加害事故撲滅 ⑥勤務時間を意識した働き方改革

達成  
 A: ほぼ達成できた  
 B: 概ね達成できた  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

3 目標・評価

① 学力向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員から	
								学校評議員の評価(A~Dで記入)	意見や提言など
教育活動	● 学力向上	「授業づくりのステップ123」に沿った授業づくり	・12月に行われる佐賀県小中学校学習状況調査において、1年生の国語及び数学については、各領域で4月の結果を上回る。他の3教科については、佐賀県の平均を上回る。2年生については、全ての領域において「おおむね達成」を上回る。	・年度当初に学習規律を身に付けさせる必要があるため、「学習の約束」を各教室に掲示し徹底を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」を念頭に、基礎基本の習得、課題解決のための活用する力、主体的な学習態度を意識した授業づくりを「授業づくりのステップ1・2・3」を活用して行う。	B	・佐賀県小・中学校学習状況調査(12月調査)結果の1年生の国語及び数学については、各領域で4月の結果を上回ることができていないものの、国語の全ての領域で県の正答率を上回り、更に5領域中3領域において十分達成を上回った。社会、理科は県の平均を上回った。2年生については、ほとんどの領域において「おおむね達成」及び県の正答率を上回った。 ・授業づくりの手立てについて、生徒の意識調査結果では肯定的な回答の割合が80%を超えており、教師の日々の授業において、「授業づくりのステップ1・2・3」による手立てが生かされていると思われる。	・校内研究会を主体とした授業スタイルについての共通理解と共通実践、及び新学習指導要領を踏まえた授業研究を継続して実施する。 ・学習状況調査の結果を分析した課題を踏まえた指導の工夫を実践する。	A	・生徒アンケートの結果で、他学年と比較すると肯定的な回答の割合が低い学年がある。原因や改善のための手立てを考えてほしい。
	● 学力向上	ICT利活用	・教師アンケートで、授業においてICT機器を活用している割合80%以上を目指す。	・わかりやすい授業や効果的な学習の手立てのために、積極的に電子黒板、デジタル教科書、ICT機器の利活用に取り組む。 ・ICT機器活用の研修会、公開授業について積極的に紹介し、年に1回以上の参加を促す。	A	・アンケートの結果よりICT機器を活用する割合は80%以上となり、目標を達成することができた。	・生徒アンケートの結果では80%未満となっている学年もあり、引き続きICT利活用研修等を講じていく必要がある。	A	・生徒や保護者のアンケート結果から、教師の取組が十分であることが分かる。
	● 学力向上	教科「日本語」の推進	・生徒アンケートで、教科「日本語」の授業で日本の伝統文化や礼儀作法のよさについて理解したと答える割合が80%以上になるようにする。	・教科「日本語」の授業を小中一貫教育の柱として位置付け、研究テーマを踏まえた指導で各学年で計画的に行う。	A	・各学年で体験活動やゲストティーチャー等を効果的に活用し、目標を達成することができた。	・授業の準備にかかる負担が大きいため、誰でも簡単に準備ができ、生徒が主体的に取り組むことができる授業プランを再考していく必要がある。	A	・教科「日本語」の授業を参観し、生徒が楽しそうに学習していたことがよかった。
	● 学力向上	家庭学習の充実	・各教科で準備した課題の取組を毎日行う。	・県教委発行の「家庭学習の手引き」を活用し、生徒・保護者への啓発を行う。 ・課題の効果的な活用方法を提示し、家庭学習の定着を図る。	A	・「家庭学習の手引き」について、PTA総会や企画委員会で紹介し、周知を図った。 ・家庭学習に毎日取り組んでいる生徒の割合が80%を超えている。	・教師主導の課題から生徒の主体的な学習へと、内容の質が深まり更に学力向上につながる取組になるような手立てを検討する。	A	・継続してほしい。
	○ 小中一貫教育	鳥栖小学校・鳥栖北小学校との連携	・教科「日本語」を柱とした小学校との連携を深める。	・定期的な会議を開催し、生徒と児童間の交流、教師間の交流の場を設定していく。 ・三校の教師全員の研修会を開催する。	B	・小中一貫教育研究発表会に向け、全職員で授業研究や部会の取組など、小中一貫教育に取り組んだ。 ・小学校との連携が深まったと回答した教師の割合が58%であった。	・教師一人一人が必要だと考える小中一貫教育の取組などについての考えを集約し、連携が深まったと実感できるような方策を取り入れる。	B	・小学校との連携については、さらに推進してほしい。

② いじめ未然防止、いじめ見逃し0

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員の評価(A~Dで記入)	意見や提言など
教育活動	● いじめの問題への対応	毎月10日「いじめ・いのちを考える日」の取組	・毎月10日の「鳥栖市いじめ・いのちを考える日」にアンケートを実施する。また、学期に1回は持ち帰りのアンケートを実施し、書きやすい場でじっくり考えて書く時間を設定する。 ・SNSでのトラブルがいじめにつながるケースが多いことから、情報モラルに関する講話やアンケートを学期に1回は実施する。	・アンケートの内容を見直し、より生徒の実態を把握できるよう改善する。 ・警察署等、関係機関と連携を図り、生徒を対象とした「スマホ・ケータイ安全教室」等のSNSにおけるトラブル予防のための講演会を実施する。	B	・アンケートを実施することで、早期発見、早期対応、振り返りを行うことができた。 ・SNSに関する情報モラル講話については、実施できていない。しかし、全校集会の場や放送などで呼びかけを行うことはできた。	・定期的なアンケートによる情報収集の継続と教師の認知力を上げ、早期対応に結びつける指導体制の確立を目指す。	A	・生徒がアンケートに本音を書くことができるような手立てを講じてほしい。
	● いじめの未然防止と早期発見のための取組の徹底		・教育相談、人権教育との連携、充実を図り、未然防止に努める。 ・早期発見のための体制作りを強化する。	・人権週間の取組や道徳の授業の充実を図り、いじめを許さない集団作りを目指す。 ・いち早く生徒の変化に気付く感性を持ち、早期発見できる生徒指導体制の充実を図るとともに、授業や学級経営等での日頃の実践や悩みを気軽に話し合える教職員間の連携を図る。	B	・人権週間の取組の中にいじめに関する放送を入れ、いじめは絶対してはいけないことを生徒に知らせることができた。 ・教師の早期発見に関わる認知力を高める取組として研修を行った。いじめの定義や指導方法などについて確認することができた。	・今後も教師の認知力を上げることはもちろんのこと、生徒の認知力を上げるための方策を生徒会と連携し、生徒主導でいじめ防止に関する集会の実施を考えていきたい。	A	・生徒アンケートの結果で、他学年と比較すると肯定的な回答の割合が低い学年がある。原因や改善のための手立てを考えてほしい。
	○ 人権教育	人権・同和教育の充実と啓発活動の推進	・教師全員が、年1回以上の人権・同和教育に関する職員研修を受け、研修の内容をふまえた生徒の人権意識向上のための授業改善を行う。 ・生徒の人権意識を向上させるために、人権放送や標語の作成などの啓発活動を年3回以上行う。	・人権意識を高めるために人権・同和教育に関する研修を受け、年間計画に沿って社会科や道徳の授業を行う。 ・思いやり標語やいじめ防止標語、人権作文を作成する。また12月の人権週間には人権放送を行い、生徒の人権意識を高める啓発活動に取り組む。	B	・アンケート結果から8割の教師が実践できたと応えており、今後も人権・同和教育の年1回以上の研修や、各学年における社会科や道徳での授業実践を計画的に進めていきたい。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と答えた生徒は9割以上に達しているが、「相手に嫌な思いをさせない断り方や自分の意見の伝え方を、授業などで学習したことがある」と答えた生徒は7割ほどであった。	・今後も計画的に教師の「一人一研修」と授業実践を行い、人権意識の向上を目指す。授業の指導案を紹介し、教師が授業実践がしやすい環境を整える。 ・学級活動の時間などで、相手を思いやる言葉遣い(アサーション)を取り扱う教材を準備し、生徒たちが自分の考えや意見を適切に伝えられるような指導を行う。	B	・改善策を実行してほしい。

③ 自己肯定感を高める生徒指導体制・相談体制

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員の評価(A~Dで記入)	意見や提言など
教育活動	● 心の教育	学級・学校行事での支持的風土づくり	・各教科等・領域を通して、全ての生徒が称賛される機会をもつことができる場を設定する。	・Q-Uテストを実施し、生徒の実態を把握する。 ・個々の生徒を称賛する記事や、友達の良いところを学年・学級通信や掲示物で紹介する。 ・生徒の実態把握や支援、その後の経過などについて、全職員で共有しながら生徒が輝く場や認め合う活動をつくる。 ・心の成長につながる道徳教育を推進する。	B	・Q-Uテストをもとに、各クラスの生徒の実態を共通理解した。 ・校内研究と連携し、行事ごとに「いいところ探偵団」を実施し、友達の良いところを認め合う機会をもった。 ・「特別の教科 道徳」の完全実施にともない、各学年ごとに教科書を中心とした共通教材を用いて授業を行った。その際、支持的風土を大切にし、意見を交流し合う活動を取り入れていった。	・年間を通じて、22の内容項目すべてにわたって授業を実施する。また、道徳の授業以外にも、すべての領域にわたって支持的風土の醸成を念頭に指導にあたる。 ・体育大会や文化発表会などの行事の際に、今年度同様「いいところ探偵団」を実施し、生徒同士によるお互いの良いところを認め合う機会を設ける。	B	・Q-Uテストの更なる活用や道徳教育の充実を図ってほしい。
	● 心の教育	教育相談の充実	・学期に1回は、教育相談週間及びソーシャルスキルに関わる取組を学年または学級で行う。	・教育相談については、生徒が安心して相談できるように、時間の確保や事前アンケートの実施などの手立てを取る。 ・学級活動の中で、相手に嫌な思いをさせないで自分の意見を主張したり、相手の申し出を断ったりするトレーニングの機会をもつ。 ・「出番・役割・承認」の場面を意図的に設け、共感的な人間関係を意識した学級経営を行う。 ・クラスの実態に応じて、ストレスマネジメントなどの授業を組み込んでいく。 ・教育相談担当がソーシャルスキル授業一覧を作成し、全職員に紹介する。	A	・学期に1回の教育相談週間を設定し、事前アンケートの実施や相談する時間が確保される日程を取った。 ・スクールカウンセラーによる、ストレスマネジメントやソーシャルスキルについての授業を全学年に実施した。 ・ソーシャルスキルについて授業で学習したと振り返っている生徒の割合が86%であった。	・教育相談については、今年度の取組を継続する。	A	・昨年度の取組を改善している。来年度も継続してほしい。
	○ 生徒指導	不登校及び不登校傾向の生徒に対する指導の充実	・一人一人の状況に応じた対応を行い、複数に対応する仕組みを構築することにより、不登校生徒の減少を図る。 ・新たな不登校生徒を出さないための未然防止に努める。	・中1ギャップを最小限に留めるように小学校との連絡を密にし、相談体制をきめ細やかにする。 ・教室に入れない生徒や欠席の続く生徒には、担任、加配教員、スクールカウンセラー等でケース会議を開き、チームを組んで対応する。 ・気になる生徒や不登校(傾向)生徒について、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーや関係職員と連絡会を毎週実施する。またチームで支援していくために、ケース会議を行っていく。	B	・1年生に関する生徒指導あるいは教育相談の面での問題等が発生したときは、小学校より情報を得るなど、連携することで、本人や保護者対応がスムーズになった。 ・ケース会議については、開催した事案とできていない事案があった。	・教室に入れない生徒のための別室(会議室など)における学校生活の支援や配慮について、ルール等の見直しや確認事項の共通理解を行う。	B	・中1ギャップについての手立てが十分かどうか、検討してほしい。

④保護者・地域に信頼される学校									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員 の評価(A～D で記入)	意見や提言など
学校運営	○開かれた学校づくり	学校運営の状況に関する積極的な情報提供の推進	・PTA活動へ積極的な関わりをもつ。 ・外部の意見を聞く機会を増やす。 ・ホームページの更新やマチコミの活用により、地域、保護者が必要な情報提供を行う。	・生徒が『この学校で学んでよかった』と思う学校を保護者や地域の方々に浸透させるため、積極的に地域に向き繰り返し説明する。 ・フリー参観を年に2回実施し、参加者を増やす。 ・学校評価アンケートや参観日のアンケートを実施する。 ・PTA活動に職員も関わりをもち、保護者との関係づくりに努める。 ・ホームページの学校からのお知らせや行事予定等を1ヶ月に1回は更新する。	A	・毎月行われている区長会や民生委員会に管理職が出向き、学校への御協力に感謝の意を述べたり、学校の様子や生徒の頑張りを伝えたりしている。 ・PTA執行委員会に職員も積極的に出席し、PTA役員との連携強化に努めている。 ・ホームページの内容が最新の情報となるように、更新を随時行ったり、まちcomiメールで保護者が必要とする情報を迅速に配信したりしている。	・参観日のアンケートへの回答数を増やし、学校運営に活用できるようにする。 ・令和3年度3年生の修学旅行検討委員会を開催するにあたり、PTA会長、1年学年委員長、副委員長に御参加いただいた。来年度は本校がコミュニティ・スクールとなるため、更なる地域・保護者の学校運営への参画が求められることになる。 ・コミュニティ・スクールへ円滑に移行するため、立ち上げの段階から、地域・保護者や鳥栖小学校・鳥栖北小学校との緊密な連携を図っていく必要がある。	A	・学校HPをよく見ており、緊急性のある知らせを掲載してもらおうとよいと思う。

⑤職員の服務規律の保持及び健康管理、交通加害事故撲滅(非公開項目)									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員 の評価(A～D で記入)	意見や提言など
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	運転・職務遂行スタイルの見直し	・体罰・ハラスメント、及び交通加害事故を0にする。	・他校等の事例について「自分のこととして考える習慣」の徹底を繰り返し図っていく。 ・日ごろから自分の運転スタイルや職務遂行のスタイルの振り返りをする。 ・事故・事案発生時に備えて、管理職は全職員の連絡先を把握し、全職員は管理職の連絡先を記録し、時刻に関わらず報告することを徹底する。 ・体罰やハラスメントについては、高い意識を保つために職員研修を実施する。 ・「体罰0ハラスメント0」を目標に職務にあたり、発生時は報告・連絡・相談・確認を徹底する。 ・教育公務員としての言動について、謙虚に自分を見つめなおす機会をもつ。 ・「ゼロの日」を計画的に進める。	A	・職員会議や連絡会等で、交通事故防止等について全職員に伝え、意識付けをすることができた。 ・体罰やハラスメントについては、目標通りに発生件数0とすることができた。 ・交通加害事故については、昨年度7件から1件に減らすことができた。	・「体罰0ハラスメント0」は今後も継続し、交通加害事故も0となるように、会議等を活用し意識付けを行う。 ・職員間でも、体罰やハラスメント、交通事故等について、話題にするような雰囲気づくりを行っていく。	A	・佐賀県内では他校の事件がニュースになっている中で、事故件数が減っているのはよく努力していると思う。継続してほしい。

⑥勤務時間を意識した働き方改革									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員 の評価(A～D で記入)	意見や提言など
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	部活動の在り方に関する方針の周知・実施と見直しをもった職務遂行	・各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進するとともに、部活動など、教職員の時間外勤務について1か月当たり前年度比10%削減する。	・部活動の在り方に関する方針の周知のため、保護者会代表等やPTA総会での説明、各家庭への文書での周知を図る。 ・業務改善に係る教職員の意識改革を図る。 ・公務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいように、フォルダ構成を工夫する。 ・各教職員の勤務時間を確実に把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントを行う。	C	・「部活動の在り方に関する方針」について、部活動代表保護者会やPTA総会での説明、各家庭への文書での周知を図った。 ・教職員の時間外勤務時間については、前年比+7.0%(1月末現在)となっており、目標から大きくはずれしてしまっている。	・ワークライフバランスを重視し、「やらなくていいことはしない」という意識改革を図り、早く退勤する雰囲気醸成する必要がある。 ・今年度、「活動の在り方に関する方針」に基づいた部活動指導時間の縮減を行ったり、2学期の通知表の所見欄を廃止したりしたが、このような業務縮減を更に進めていく必要がある。 ・教職員が生徒の問題行動への対応を一人で抱え込み、問題を大きくしてしまうことがあったので、学年を中心としたチームでの対応を徹底していく。	B	・教師の努力だけではどうしようもない部分があるのではないか。組織としての努力が必要だと思う。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目									
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策	学校評議員 の評価(A～D で記入)	意見や提言など
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の育成	・「早寝、早起き、朝ご飯」を奨励し、朝食をとって登校する生徒の割合を昨年度(93%)より増やす。	・保健便りやPTA新聞等を通して、「朝食をとることや23時までの就寝、7時までの起床の意義の理解と啓発を行う。 ・朝食をとらずに登校する生徒を把握し、生徒及び保護者に対する個別の手立てを行う。	B	・PTA新聞に、朝食をとることについての意義に関する記事を掲載し、保護者への啓発を行った。 ・毎日、朝食をとって登校をしている生徒の割合が89%であった。	・朝食摂取率を高めるために、朝食の大切さについて、様々な機会を捉えて生徒に伝え理解させて、改善に取り組みたい。 ・これからも担任や養護教諭とも連携し、全体の健康教育・健康指導を推進していく。	B	・食育の必要性を感じる。生徒が自ら朝食を作ってとってくださるようになってほしい。
	●志を高める教育	目標に向かって、自ら学び、自ら考える生徒の育成	・生徒アンケートで、学習や様々な活動において目標をもち主体的に取り組むことができた割合80%以上を目指す。	・学習や行事などの活動において、生徒が自らの能動的な行動でこの学校で学んでよかったと思えるような手立てを取る。 ・職場体験学習や実社会に即した話を聞く場を設けるなどキャリア教育の充実を図る。	B	・学習や様々な活動において、目標をもち主体的に取り組むことができた生徒の割合が74%であった。学年によっては、目標の80%を超えていたが、全校としては80%を達成することができなかった。	・学習面では、一方的に教え込む指導ではなく、主体的な学びの視点を踏まえた「話し合う活動」などを、さらに進めていく。 ・行事などでは、教師主体ではなく、実行委員会形式など生徒たちが考えて運営するような場を設ける。 ・いずれも、事前に職員間での十分な話し合い等の時間を確保したり、事後の振り返りをしたりする必要がある。	B	・生徒が主体となって活動するような手立てを取ってはどうか。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

4 本年度のまとめ・次年度の取組									
<p>学校教育目標と、それに基づいた本年度の重点目標の実現に向けて、教育活動を行った。学力向上では、小中一貫教育と校内研究の取組を中心に、「話し合う活動」やICT活用といった共通実践を行い、保護者や生徒のアンケート結果から、高い信頼を得ていると考えられる。下記の改善策1、2について、来年度は具体的な取組を実施したい。</p> <p>【改善策1】いじめ未然防止、いじめ見逃し0については、教師と生徒の認知力を上げるための方策を実施したり、早期対応に結び付く指導体制の確立を目指す。</p> <p>【改善策2】勤務時間を意識した働き方改革については、生徒の問題行動への対応などについて、教職員が一人で抱え込まないよう学年を中心としたチームでの対応を徹底していく。</p>									